

平成29（2017）年度
東京大学大学院学際情報学府学際情報学専攻
修士課程（社会情報学コース・一般選抜）

入学試験問題
専 門 科 目

（平成28年8月22日 14:00～16:00）

試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはいけません。開始の合図があるまで、下記の注意事項をよく読んでください。

1. これは、社会情報学コース・一般選抜の問題冊子である。
2. 本冊子の本文は8ページである。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあった場合には申し出ること。
3. 解答用紙は3枚ある。問題ごとに解答用紙1枚を使用すること。このほかにメモ用紙が1枚ある。なお、解答用紙のみが採点の対象となる。
4. 解答用紙の上方の欄に、問題の番号（例：「第1問」）、選択記号がある場合にはその記号（例：「第2問A」）及び受験番号を必ず記入すること。問題番号、選択記号及び受験番号を記入していない答案は無効とする。
5. 解答には必ず黒色鉛筆（または黒色シャープペンシル）を使用すること。
6. 解答は日本語によるものとする。
7. 試験開始後は、中途退場を認めない。
8. 本冊子、解答用紙、メモ用紙は持ち帰ってはならない。
9. 次の欄に受験番号と氏名を記入せよ。

受験番号	
氏 名	

社会情報学（一般選抜） 第1問

次の英文を読み、以下の問いに日本語で答えなさい。

下記出典の文章を掲載しています。

出典 Clough, J. (2010). *Principles of Cybercrime*. Cambridge: Cambridge University Press.

* maxim: 格言

(1) 下線部 (a) はどのような意味か。著者の議論に沿って 400 字程度で説明しなさい。

(2) 下線部 (b) について、あなたの意見を、具体的事例を挙げながら、600 字程度で述べなさい。

社会情報学（一般選抜） 第2問

以下の（A）から（F）までの中から1問を選択し、選択した問題の記号を解答用紙に明記の上、答えなさい。

- (A) インターネット上で公開されている匿名での書込みによって、あなたのプライバシーが侵害された場合の対応措置に関して、以下の問いに答えなさい。
- (1) 日本の現行の法制度の下で、どのような対応措置をとることができるかについて、関連する法令・判例を挙げながら、500字程度で説明しなさい。
 - (2) 上記(1)で説明した対応措置に含まれる問題点とその解決策を、500字程度で論じなさい。
- (B) メディアが主体となつて行うキャンペーン報道について以下の問いに答えなさい。
- (1) キャンペーン報道とは何か、具体例を挙げつつ500字程度で説明しなさい。
 - (2) キャンペーン報道の功罪について、あなたの考えを500字程度で述べなさい。
- (C) 「合理的な政策決定」について、以下の問いに答えなさい。
- (1) 「合理的な政策決定」を可能にする諸条件とそれらの阻害要因を具体的に挙げ、合計500字程度で説明しなさい。
 - (2) 現在までの情報通信技術の発達が「合理的な政策決定」に資する部分とその限界について、(1)で行った説明も踏まえ、合計500字程度で説明しなさい。

【(D) は次頁】

(D) 経済学者 Hayek による次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

下記出典の文章を掲載しています。

出典 Hayek, F. A. 『貨幣論集』(池田幸弘, 西部忠訳, 2012). 東京: 春秋社, p. 87.

- (1) 貨幣の持つ3つの機能のうち、文章中の「交換手段」以外の2つの機能を各5字以内で答えなさい。
- (2) ビットコイン (Bitcoin) などブロックチェーン (blockchain) を用いた仮想通貨は、将来の経済活動をどのように変容させる可能性があるか。上の文章を踏まえて、あなたの考えを800字程度で論じなさい。

【(E) は次頁】

(E) カーネギーメロン大学の Kraut らは、家族とのコミュニケーション量や孤独感の増減など、インターネットの影響を明らかにするために実証的調査を試みた^{*1}。

ペンシルバニア州ピッツバーグから 93 世帯 256 名をサンプルとして選び、1995 年 3 月ないし 1996 年 3 月から 1997 年 3 月まで 1 年または 2 年にわたるパネル調査（追跡調査）を実施した。調査対象者は 10 歳以上でいずれもインターネットを初めて利用する人たちである。

各世帯に無料でパソコンとソフトウェアを配布し、インターネットには無料でアクセスさせた。調査期間中、インターネット利用量（アクセス時間、Eメールの受発信数、ウェブのアクセス数）は、ログ記録により自動的に計測した（T2＝調査期間中の平均）。

中心的な従属変数は、家族とのコミュニケーション量、社会的ネットワークの規模、孤独感等であり、インターネット利用開始前（T1）と調査期間終了後（T3）に測定し、その変化をみた。

表 E-1 は、T3 時点の対象変数の数値（「家族とのコミュニケーション量」「孤独感」）を従属変数、T1 時点の対象変数の数値およびいくつかのデモグラフィック変数、調査期間中のインターネット利用時間を独立変数とした重回帰分析の結果である。

表 E-1 Kraut らのインターネットの影響に関する重回帰分析結果

独立変数	モデル A		モデル B
	従属変数	家族とのコミュニケーション量 (T3)	孤独感 (T3)
切片		.00	.02
年収		—	.13 †
人種 (白人=1, その他=0)		.10	-.16*
年齢 (10代=1, 20以上=0)		-.09*	.02
性 (女性=1, 男性=0)		.09*	-.14*
家族とのコミュニケーション量 (T1)		.40***	—
外向性		—	-.16*
孤独感 (T1)		—	.50***
インターネット利用時間 (T2)		-.08*	.15*
R2 (決定係数)		.84	.38

Kraut, R. et al. (1998) ^{*1} Table 3 より作成。

- ・表中の「—」はモデルとして当該の変数を独立変数として投入していないことを意味する。
- ・***: p < .001, **: p < .01, *: p < .05, †: p < .10

【次頁に続く。】

- (1) 表 E-1 から、インターネットの利用は「家族とのコミュニケーション量」「孤独感」にどのような影響を及ぼしたと言えるか。その結果の背景の解釈も合わせて 400 字程度で説明しなさい。
- (2) その後、Kraut らは継続研究で、上記のようなことが必ずしも一般化できないことを明らかにした。現在において、「家族とのコミュニケーション量」「孤独感」に関し、インターネットはどのような影響を及ぼしていると思われるか、600 字程度であなたの考えを述べなさい。

* Kraut, R., Patterson, M., Lundmark, V., Kiesler, S., Mukopadhyay, T. & Scherlis, W. (1998) Internet Paradox: A social technology that reduces social involvement and psychological well-being?, *American Psychologist*, 53 (9), pp. 1017-1031.

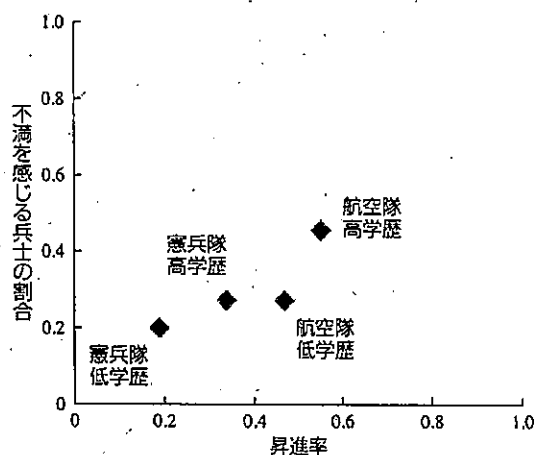
【(F) は次頁】

(F) 次の表と図は、サミュエル・ストウファらが『アメリカ兵』(Stouffer et al., *The American Soldier: Adjustment during Army Life*, Princeton University Press, 1949)において相対的剥奪の概念を示すさいに提示したデータを再構成したものである(盛山和夫編著『社会を数理で読み解く』有斐閣、2015年)。この表と図にもとづき、以下の問いに答えなさい。なお、表のデータは、「能力ある兵士は軍隊のなかで昇進機会に恵まれているとあなたは思いますか?」という質問に対する回答を、諸属性別に分けて示したものである。

表 F-1 昇進機会に関する回答

	回答	憲兵隊		航空隊	
		低学歴	高学歴	低学歴	高学歴
下士官	とても良い	58%	27%	30%	19%
	まあまあ良い	29%	45%	39%	44%
	どちらともいえない	5%	8%	10%	3%
	あまり多くない/全くない	8%	20%	21%	34%
	総人数	165人	241人	70人	152人
兵卒と一等兵	とても良い	33%	21%	20%	7%
	まあまあ良い	35%	36%	42%	27%
	どちらともいえない	9%	12%	5%	6%
	あまり多くない/全くない	23%	31%	33%	60%
	総人数	707人	470人	79人	123人

図 F-1 集団の昇進率と不満を感じる兵士の割合の関係



(注) 横軸は部隊の昇進率(下士官兵士の割合)。

- この表と図から読みとれる傾向について、次の①②_____に補うべき語彙を、番号とともに解答用紙に記しなさい。
 - 憲兵隊と航空隊を比較した場合、学歴の別にかかわらず、昇進率は_____のほうが高い。
 - 憲兵隊と航空隊を比較した場合、昇進の機会に不満を感じる兵士の割合は_____のほうが大きい。
- なぜ(1)のような傾向がみられるのか、「準拠集団」および「相対的剥奪」の語を必ず用いて、400字程度で説明しなさい。
- 相対的剥奪の概念によって説明できると考えられる事象を1つ取り上げ、そう考える理由を含めて500字程度で述べなさい。

社会情報学（一般選抜） 第3問

以下の (a) から (f) までの 6 つの群から 1 つの群のみ を選択し、その群に列記されている 5 つのカナ記号 ((ア) ~ (オ)) のうち 3 つを選択して、選択した用語の意味を、それぞれ 300 字程度で説明しなさい。その際、必ず選択したアルファベット記号及びカナ記号を解答用紙に明記すること (これらのアルファベット記号及びカナ記号が記載されていない解答は無効とする)。

(a)

- (ア) 学問の自由と大学の自治
- (イ) ヘイドスピーチに対する規制
- (ウ) 電波法による無線局開設の免許制度
- (エ) 公益通報者保護法
- (オ) 著作権侵害罪の一部非親告罪化

(b)

- (ア) データジャーナリズム
- (イ) 公共放送としての日本放送協会 (NHK)
- (ウ) リップマン (W. Lippmann) のステレオタイプ
- (エ) 連邦通信委員会 (FCC) のフェアネスドクトリン
- (オ) 国境なき記者団 (Reporters without Borders)

(c)

- (ア) NPT体制 (NPT regime)
- (イ) レント・シーキング (rent seeking)
- (ウ) 業績評価投票 (retrospective voting)
- (エ) 共和主義 (republicanism)
- (オ) 民主主義による平和 (democratic peace)

【(d)、(e) 及び (f) は次頁】

(d)

- (ア) インダストリー4.0
- (イ) SWOT分析
- (ウ) コブ・ダグラス型生産関数
- (エ) 経済協力開発機構 (OECD)
- (オ) アカロフ (Akerlof) のレモン市場

(e)

- (ア) 確証バイアス (confirmation bias)
- (イ) 予言の自己実現
- (ウ) 正常化の偏見 (normalcy bias)
- (エ) 沈黙の螺旋
- (オ) 質問票調査におけるキャリーオーバー効果

(f)

- (ア) 社会的距離
- (イ) 統計的検定における第一種過誤と第二種過誤
- (ウ) 『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』
- (エ) 構造人類学
- (オ) フェビアン協会